

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中小企業支援事業			決算書頁	232
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	11 商工業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 人見 巖		

2. 事業の目的

中小商工業者の経営基盤の確立及び地域商業の活性化

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	109,099	112,676	△ 3,577	一般財源	11,972	12,274	△ 302	
	事業費	100,426	103,824	△ 3,398	国県支出金				
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)	97,127	100,402	△ 3,275	
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	中小企業支援事業	細事業事業費	2,983
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内商工業者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	事業所数3,949 従業員数35,049人(平成24年度経済センサス確報値より)		
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償		
(4)26年度 of 取組と成果			
【取組1】イベント等支援事業、経営指導等支援事業			
商店会が開催するイベント事業や商店会の経営指導、分析等の業務委託に要する経費に対し、補助を行った。			
○イベント等支援…市内各商店会が地域商業の活性化に向け、創意工夫したイベントを継続して開催したり、ボランティア活動や、地域振興に寄与する事業を行うことで、市民と商業者の交流が図れ、地域ににぎわいが生まれた。			
○経営指導等支援…商店会が各店舗の売上状況や販売状況を分析し、顧客獲得につなげるための経営指導を受けることで、地域振興に寄与した。			
(実績)			
	申請件数	補助金額	
地域商業活性化補助事業	13件	2,184千円	
【取組2】見本市出展補助事業、エコアクション21認証・登録補助事業			
中小企業者等が販路拡大を目的として行う見本市出展事業や、中小企業者でも取り組みやすい環境経営のあり方を示したエコアクション21の認証・登録に要する経費に対し、補助を行った。			
○見本市出展補助事業…見本市等における出展・出品は、工業者の販路拡大のための大変有効な手段であり、市の支援により出展を継続することで自社製品をPRし、新分野の顧客の開拓につながった。			
○エコアクション21等認証・登録補助制度…商工会会員に同補助制度の説明会を開催し、さらにエコアクション21の認証・登録のための集合研修を実施したことにより、環境経営に取り組む事業者が増加した。			
(実績)			
見本市出展補助事業:件数4件、補助金額 360,000円			
エコアクション21認証・登録補助制度:件数 2件、補助額 194,000円			

(単位:千円)

＜細事業2＞	中小企業融資あっせん制度	細事業事業費	97,443		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内に事業所を持つ中小企業者			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		債務者65人 債務残高97,010,700円(平成27年3月31日)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)26年度の取組と成果					
【取組】中小企業融資あっせん制度					
○中小企業融資あっせん制度取扱金融機関に対し預託を行い、市内中小企業者の事業資金が円滑に提供されるように努めた。					
○融資に伴い、県信用保証協会に支払う保証料の一部を補助することで、借入者の負担軽減に努めた。					
(実績)					
○融資あっせん事業(融資件数)					
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
申込件数(件)	26	19	8	9	4
申込金額(千円)	129,000	63,100	34,000	35,500	10,000
承諾件数(件)	19	14	8	9	4
承諾金額(千円)	87,500	40,900	34,000	35,500	10,000
○保証料負担件数と金額： 3件 88,935円					

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 イベント等への支援は、地域と事業者との交流の場が創出され、事業者の顧客獲得につながるため、事業者の商売への意欲を向上させることができた。 また、工業者等に対する支援においては、新技術の開発、商品のPR等に貢献できた。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について 各イベントは毎年同じ内容で実施されていることが多く、マンネリ化によって、事業効果が薄れていくことが考えられるので、それを解消する新しい取組みを実施する必要がある。 また、各補助制度において、利用者が固定化していたり、実績がない補助制度もあるなど、補助の活用に関する課題が生じている。 融資あっせん事業については、セーフティネット保証制度の浸透などによって減少傾向にあるが、融資の選択肢の幅を広げるために、制度を継続する必要がある。	27年度以降における具体的な方向性について イベント事業については、各地の成功事例や新たな取り組みの事例などを収集し、各商店会や商業団体に情報提供することにより、その実施内容の見直しを促す。 また、補助制度については、商工会と連携して情報発信を行うことなどで、活用を促進する。 さらに、中小企業の資金調達のための融資あっせん制度においては、国のセーフティネット保証制度における指定業種が大幅に減小することから、今後において活用の増加が見込まれるので、事業者に対し、有利な資金情報を提供する。
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中心市街地活性化推進事業			決算書頁	232
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	12 中心市街地の活性化を推進します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 人見 巖		

2. 事業の目的

中心市街地の活性化の推進

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	23,197	16,385	6,812	一般財源		23,197	16,385	6,812
	事業費	14,524	7,533	6,991	国県支出金				
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

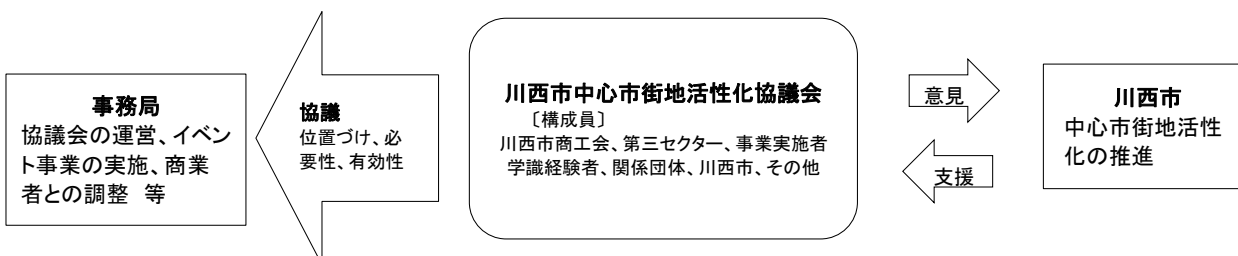
＜細事業1＞	中心市街地活性化推進事業	細事業事業費	14,524
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市民及び商業関係者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	川西市中心市街地エリア 約80ha		
(3)参画と協働の主な手法(実績)	意見提出手続(パブリックコメント)	補助、助成、報償	共催、実行委員会
(4)26年度 of 取組と成果			

【取組1】川西市中心市街地商業活性化助成金

川西市中心市街地活性化協議会(以下、「協議会」という。))に対して助成金を交付し、中心市街地の活性化に向けた事業及び協議会の運営に対する支援を行った。

主な内容

- ・川西市中心市街地活性化基本計画(以下、「基本計画」という。)の推進のための関係部局や関係団体との協議
- ・協議会の運営支援
- ・川西能勢口駅周辺の商業活性化のための支援やそのためのイベント事業の実施



【取組2】川西市中心市街地活性化基本計画の策定

長期化する経済不況や、周辺地域の大規模商業施設の建設等により、小売業の商店数や販売額が減少するなど、本市の中心市街地の商業は厳しい状況が続いていることから、引き続き中心市街地の活性化を図っていく必要があるため、新たな基本計画を策定した。

【実績1】

協議会の主な活動

協議会は、内閣総理大臣の認定を受けた基本計画の意見機関であり、中心市街地の活性化につながる事業推進のために、協議会及び事務局会議、事務担当者会議などの開催や、本市の中心市街地の現況把握と課題分析、にぎわい形成のための方針や方向性などを協議している。主な事業は以下の通りである。

(協議会等開催数)

・協議会 4回開催 ・事務局会議開催 4回開催 ・事務担当者会議 2回開催

基本計画に係る実施事業

・第7回きんたくんバル(平成26年4月12日(土)、13日(日)実施) ・第8回きんたくんバル(平成26年10月11日(土)実施)

川西能勢口周辺の事業者(きんたくんバル実行委員会)による食べ歩き・飲み歩きの事業を実施

【第7回きんたくんバル実績】参加店:71店 チケット販売枚数 5枚セット:1, 154冊

【第8回きんたくんバル実績】参加店:76店 チケット販売枚数 5枚セット:973冊 香熟咖喱の試食会を実施

・第2回 まちなか美術館～きんたくんギャラリー～(平成27年2月15日(日)～3月1日(日)実施)

川西能勢口周辺のまちなか空間(事業所の空きスペースなど)を美術館に見立てる事業を実施。

12会場で実施 参加作家66名 作品数149店 デジタルカウンターによる来場者数10, 267名

各商業施設に芸術作品を展示することにより、回遊性が創出された。

・「光のオブジェ」事業(平成26年12月19日(金)～平成27年1月21日(水)実施)

川西能勢口駅前バスターミナル花壇内に星形のイルミネーションを設置し、幻想的な空間を演出。

・川西能勢口駅周辺歩行者通行量調査(平成26年11月19日(水)・23日(月祝)実施)

基本計画の目標指標である歩行者通行量の増加を図るため、毎年、同時期に実施

H25休日(11.20)数値 H26休日(11.23)数値 H25平日(11.24)数値 H26平日(11.19)数値

63, 850人 ⇒ 64, 172人

63, 295人 ⇒ 59, 585人

・タウンマネージャー事業

タウンマネージャーとは、商業者間等の連携強化、事業等の企画・改善等の実施、国等の補助金の活用や人材の発掘・育成などを実施する者。協議会において意見交換等を行い、新たな基本計画の策定に向けた活動を支援するとともに、協議会が実施するイベント活動を効果的に実施することで、まちづくりの気運を高め、活動への協力者を増加させた。さらには、商業施設の建て替えを考える商業者に対して、国の補助金を活用するなどの調整を行った。

【実績2】

平成27年2月6日付で内閣府に認定申請した基本計画が、平成27年3月27日付で内閣総理大臣の認定を受けた。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 新たな基本計画を策定するために、協議会との意見交換を活発に行い、内閣総理大臣の認定を受けることで、協議会全体の連帯感を高めることができた。また、協議会による各イベント事業の実施においても、タウンマネージャーが中心となって企画・改善を提案するとともに、商業者をはじめ、商工会や市といった各関係団体の役割を調整し、効果的なイベント運営などを行う体制が強化できた。
課題と改善について 歩行者通行量の増加から、通勤・通学者を含め多くの人々が中心市街地を訪れているが、店舗の売上等の上昇に繋がっていない。今後、新たな基本計画を推進するうえで、商業関係団体の自立を促し、中心市街地の活性化に自ら取り組む仕組みづくりが重要であることから、調整役であるタウンマネージャーとのさらなる連携が必要である。	27年度以降における具体的な方向性について 前基本計画の推進により生まれたにぎわいを、今後も維持・継続していくため、現状分析や改善策を講じていくほか、協議会を構成する関係団体を中心に意向を確認しつつ、中心市街地活性化推進事業の方向性を、引き続き検討する。 また、タウンマネージャーを中心に、活性化に向けた地盤を築くとともに、中心市街地の今後を見据え、関連する各部署と連携を図りながら、新たな基本計画を推進する。

※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	川西都市開発株式会社経営支援事業			決算書頁	234
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	12 中心市街地の活性化を推進します				
所管部・課	総合政策部 財政室	作成者	主幹 船木 靖夫		

2. 事業の目的

川西都市開発株式会社の経営安定化を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	7,565	38,229	△ 30,664	一般財源	7,565	38,229	△ 30,664	
	事業費	7,565	29,377	△ 21,812	国県支出金				
	職員人件費		8,852	△ 8,852	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)		1	△ 1	特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	川西都市開発株式会社経営支援事業	細事業事業費	7,565	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	川西都市開発株式会社			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	1社			
(3)参画と協働の主な手法(実績)				
(4)26年度の実績と成果				
1. 川西都市開発株式会社経営健全化助成金の交付				
助成対象8区画(空き店舗4区画、催事店舗4区画)分の助成金7,565千円を交付した。				
・助成対象・期間				
会社がサブリース※している賃貸借の物件のうち、空き店舗に係る共益費及び催事店舗に係る家賃収入で賄えない共益費を対象とする。助成期間は、5年間とする。ただし、期間終了後、必要と認めるときは、助成期間を延長することができる。				
※転賃、又賃しのこと。				
・助成額				
① フロア又はエリア再構築までの間は、助成対象経費の全額を助成する。				
② 再構築したフロア又はエリアについては、助成対象経費の1/2の額に減額して助成する。				
2. 空店舗・催事店舗の状況について				
フロア	平成26年10月末		平成27年3月末	
	空店舗	催事店舗	空店舗	催事店舗
3階	2	3	2	2
2階	1		2	
1階	2		2	
地下1階				
計	5	3	6	2
注)催事店舗は、契約が1年未満の短期で貸しているもの				

3. 平成26年度中のテナントリーシングの状況

- 平成26年春に新規8店舗をオープン
- 既存の10店舗をリニューアルオープン

4. 第29期(平成26年度)の決算について

単位:百万円

損益計算書	H25年度決算	H26年度決算	H26－H25
売上高	778.4	794.9	16.5
売上原価	483.2	424.4	▲ 58.8
売上総利益	295.2	370.4	75.2
販売費及び一般管理費	293.4	254.6	▲ 38.8
営業利益	1.8	115.8	114.1
営業外収益	14.8	26.9	12.1
営業外費用	29.1	25.8	▲ 3.3
経常利益	▲ 12.5	116.9	129.5
特別利益	119.9	11.5	▲ 108.4
特別損失	345.0	16.9	▲ 328.1
法人税住民税事業税	0.3	6.8	6.5
法人税等調整額	▲ 1.7	▲ 5.3	▲ 3.6
当期純利益	▲ 236.3	110.0	346.3

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☐ おおむね達成できた。 ☒ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 平成26年度の会社の経営成績は、上記損益計算書のとおり昨年度に比べて回復し、当期純利益が黒字となった。 テナントリーシングが進み、空き店舗・催事店舗が減少した結果、平成26年度の市からの経営健全化助成金は減額となったが、当該助成制度もこの業績回復に寄与している。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について 今後も、引き続き、会社側が最大限の努力をもって経営再建に取り組むよう、その進捗を確認していく。 できるだけ早期に、空き店舗・催事店舗の解消を実現し、市からの助成金を縮小していく必要がある。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 平成26年4月以降に進めたりニューアル、テナントリーシングの結果、平成26年度の経常利益は計画値を上回った。 今後も市中心部のにぎわいのカギを握る施設として、周辺商業施設との競争に耐えうる、また消費者のニーズの変化を捉えた魅力ある店舗展開を行う必要がある。市としては、経営再建の状況を定期的に把握し、経営監視を行っていく。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業振興事業			決算書頁	228
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	13 農業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 人見 巖		

2. 事業の目的

地域農作物の生産振興と地産地消等の推進

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	24,549	24,724	△ 175	一般財源		23,364	23,327	37
	事業費	7,203	7,020	183	国県支出金		1,159	1,381	△ 222
	職員人件費	17,346	17,704	△ 358	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	2	2		特定財源(その他)		26	16	10
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	水田農業総合対策事業	細事業事業費	1,338			
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内農業者					
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	生産組合員数 715人					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償					
(4)26年度の取組と成果						
【取組 1】川西市農業再生協議会運営						
(目的)	国内の農業経営の安定と国内生産力の確保を図り、食料自給率の向上と農業の多面的機能を維持するために、経営所得安定対策の推進や、実施における連携体制の構築、米の需給調整の推進などを図る。					
(事業実績)		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
生産目標面積(a)	7,440.10	7,300.00	7,300.00	7,060.40	6,186.80	
作付け実績面積(a)	6,957.00	6,780.60	6,281.20	6,185.10	5,964.40	
配分対象農業者(人)	612	602	599	597	595	
【取組 2】耕作放棄地の解消と担い手の育成への取り組み						
(目的)	本市において、「農業振興地域」がないため、農業経営基盤促進法に基づく「基本構想」を策定し、法的な制限の緩和等を利用した耕作放棄地の解消と担い手の育成に取り組む。					
(事業実績)	● 農業塾の開催 受講者 13人 (市内在住又は在勤者で、農業に興味がある人)					
	現場実習及び座学を8回実施					
	● 市民ファーマー制度					
	非農家であっても、認定を受けた人が、小規模な農地(1アールから10アール)を借りて、農業を始めることができる制度。					
	実績 1名 山原地区の農地を平成26年4月から3年間借りて耕作を実施(平成25年度認定)					
	● 認定農業者					
	農家が積極的に農業を展開するために、国の有利な支援策が受けられるよう経営改善計画を作成し、市による認定を受けることによって、認定農業者となる。					
	実績 1名 (西畦野地区)					

＜細事業2＞	農業振興推進事業	細事業事業費	5,865						
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内農業者								
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	生産組合員数 715人								
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償								
(4)26年度の取組と成果									
【取組 1】川西市農林業振興支援事業									
(目的)	農林業の健全な発達と振興及び地域の活性化を図るために各種団体に組織された研究会又は広域的に農林業を支援している団体に、当該補助金を交付することにより、農林業及び経済の発展向上に寄与する。								
(対象団体)	川西市農業振興研究会、川西市営農研究会								
(事業実績)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象団体</th> <th>事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川西市農業振興研究会</td> <td>① 農業特産物の奨励事業（品評会、即売会、講習会等） ② 農産物の流通対策事業 ③ 研究事業（現地視察、花き品種・鳥獣防除・病害中研究会） ④ 土づくり事業</td> </tr> <tr> <td>川西市営農研究会</td> <td>即売会等で利用する桃、いちじくの箱や市内直売所等で利用する防曇袋及び農業用廃棄ビニール、廃棄農薬の処理に対して助成。</td> </tr> </tbody> </table>			対象団体	事業内容	川西市農業振興研究会	① 農業特産物の奨励事業（品評会、即売会、講習会等） ② 農産物の流通対策事業 ③ 研究事業（現地視察、花き品種・鳥獣防除・病害中研究会） ④ 土づくり事業	川西市営農研究会	即売会等で利用する桃、いちじくの箱や市内直売所等で利用する防曇袋及び農業用廃棄ビニール、廃棄農薬の処理に対して助成。
対象団体	事業内容								
川西市農業振興研究会	① 農業特産物の奨励事業（品評会、即売会、講習会等） ② 農産物の流通対策事業 ③ 研究事業（現地視察、花き品種・鳥獣防除・病害中研究会） ④ 土づくり事業								
川西市営農研究会	即売会等で利用する桃、いちじくの箱や市内直売所等で利用する防曇袋及び農業用廃棄ビニール、廃棄農薬の処理に対して助成。								
【取組 2】有害鳥獣等捕獲頭数									
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度				
アライグマ(頭)	84	57	66	82	120				
ヌートリア(頭)	21	5	3		7				
イノシシ(頭)	63	19	29	42	74				
シカ(頭)	32	7	13	35	52				

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 農業振興研究会を通じて、農業振興に係る事業として、いちじく・桃等の即売会などを継続的に実施していることに加え農業塾を開催し、農業への関心を高めるとともに、市民ファーマー制度の周知を図った。 また、アライグマ・シカ・イノシシなどの有害鳥獣対策では、捕獲数も増加し、被害防止に努めた。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について 特産物等の消費者層を拡大するためには、特に若年層やファミリー層へのPRが必要である。また、鳥獣被害については、農作物被害の撲滅までには至っていないため、捕獲体制等を見直し、より効果的な手法を構築する必要がある。 また、市民ファーマーや認定農業者への成り手が少ないため、今後、さらに制度周知等に努める必要がある。	27年度以降における具体的な方向性について 特産物等のPRについては、従来の方法に加えて、各種イベント時における積極的なPR及びホームページ等の充実による取り組みを進める。 また、鳥獣被害については、猟友会等の協力体制の強化や県及び専門機関と連携し、効果的な捕獲体制を確立させ、捕獲頭数の増に努める。 市民ファーマー制度等については、農家及び市民にその制度の周知に努めるとともに、農業塾の修了生を中心に、市民ファーマーや農業ボランティアに導くなど、耕作放棄地の増加抑制や担い手の育成に取り組む。
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業用施設改良事業			決算書頁	230
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	13 農業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 人見 巖		

2. 事業の目的

ため池の安全対策及び農業用水の安定的な供給を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	18,294	37,395	△ 19,101	一般財源		14,970	11,457	3,513
	事業費	18,294	37,395	△ 19,101	国県支出金		1,434	22,747	△ 21,313
	職員人件費				地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)				特定財源(その他)		1,890	3,191	△ 1,301
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	農業用施設改良事業	細事業事業費	18,294
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		生産組合員数 715名	
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		30地区	
(3)参画と協働の主な手法(実績)		補助、助成、報償	
(4)26年度の取組と成果			
【取組 1】農業用施設改良(応急)事業 : 5,027,000 円			
(目的) 農業用施設等の改修に要する費用について、市が補助を行うことにより、耕地の保全と農業生産力の向上を図ることを目的とする。			
(事業実績)			
対象地区	工事内容	金額(円)	
東畦野地区	既設水路の崩壊により、漏水箇所が多いため、補修対応が困難であり、ポンプアップでの必要水量の確保を図る	4,709,000	
西多田地区	水門開閉機の故障に伴う修繕	72,000	
一庫地区	既設水門ゲートの故障に伴う修繕	10,000	
西畦野地区	水路の適正維持に伴う修繕	100,000	
一庫地区	水路の適正維持に伴う修繕	36,000	
赤松地区	水路の適正維持に伴う修繕	100,000	

【取組 2】ため池一斉点検業務委託料（H25年度繰越事業）： 1,434,240 円

（事業実績）	名 称	実施内容	金額(円)
	ため池一斉点検業務委託料	①地元のため池管理者が実施する通常管理・点検を補完するために、ため池管理者による日常点検が的確になされているかを確認するとともに、健全度等を把握し、ため池の適切な保全管理を図ることで、被災リスク低減を実施する。 ②過去の地震によるため池被災状況等耐震性に関わるため池諸元を分析し、耐震設計の必要性を判定する。	1,434,240

【取組 3】大草下池改修工事 変更積算・現場技術業務委託料（H25年度繰越事業）： 901,680 円

（事業実績）	名 称	実施内容	金額(円)
	大草下池改修工事 変更積算・現場技術業務委託料	農村地域防災減災事業大草下池ため池改修工事を行うにあたり、変更設計・現場技術業務を実施。 ※全体業務委託料(3,316,680円)のうち、H25年度執行額(2,415,000円)は除く。	901,680

【取組 4】農村地域防災減災事業大草下池ため池改修工事（H25年度繰越事業）： 6,260,820 円

（事業実績）	名 称	実施内容	金額(円)
	農村地域防災減災事業大草下池ため池改修工事	①取水施設 ため池栓・サイフォンをスライドバルブに改修 ②洪水吐 漏水を防ぐため L=15mの改修 ③その他 工事用進入路の造成 ※全体工事費(17,527,320円)のうち、H25年度執行額(11,266,500円)は除く。	6,260,820

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 地元から要請のあった、緊急性のある農業用水路や樋門などの工事に対して、市が助成することにより、農地の保全等に貢献した。
課題と改善について 近年、ため池をはじめ、水路や樋門などの農業用施設の老朽化が著しく、その補修工事に対して、地元から市の支援を求める相談が増えており、今後、各地域の施設の状況を把握し、計画的に支援していく必要がある。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 農業用施設の改修工事等に対し、予算の範囲内で優先順位を決めて支援する。 また、農業者の高齢化や担い手不足により、今後、ますます農業用施設の維持管理が困難となることが予想されることから、施設の機能廃止等を含め、地元の意向を踏まえた施設管理が必要となる。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業用施設等災害復旧事業			決算書頁	344
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	13 農業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 人見 巖		

2. 事業の目的

災害による農業用施設等の復旧

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	9,073	804	8,269	一般財源		7,710		7,710
	事業費	9,073	804	8,269	国県支出金		350	259	91
	職員人件費				地方債		800		800
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)				特定財源(その他)		213	545	△ 332
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	農業用施設等災害復旧事業	細事業事業費	9,073
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内農業者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	生産組合員数 715人		
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)26年度の取組と成果			
【取組 1】 農業用施設等災害復旧事業に係る設計測量等委託料： 6,952,284 円			
(目的) 平成26年8月8日～10日発生の台風11号の降雨等により崩壊した畦畔の復旧工事のための設計測量を行う必要が生じたため			
(事業成果)	対象	工事内容	金額(円)
	災害復旧測量業務委託料	現地測量 一式	2,138,400
	農地・農業施設災害査定設計業務委託料	台風11号により被災した市内の農業施設に対し、農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律(以下、「暫定法」という。)に基づく災害復旧事業を実施するに際し、査定設計書作成等を実施	3,456,000
	農業災害現場技術・変更積算業務委託料	台風11号により被災した市内の農業施設に対し、農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律(以下、「暫定法」という。)に基づく災害復旧事業を実施するに際し、実施設計書作成等を実施 査定設計書作成(農地4件、施設1件)、現場管理(赤松) ※全体業務委託料(3,240,000円)のうち、1,882,116円は次年度に繰り越す。	1,357,884

【取組 1】 農業用施設等災害復旧事業に係る工事料： 2,121,120 円

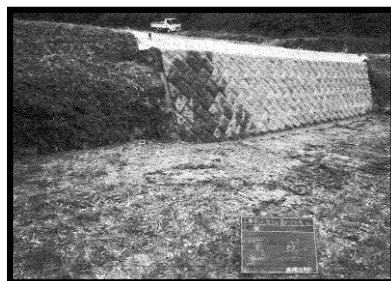
(目的) 平成26年8月8日～10日発生 of 台風11号の降雨等により崩壊した畦畔の復旧工事のための設計測量を行う必要が生じたため

(事業成果)	対象	工事内容	金額(円)
	山原地内 農地災害復旧工事料	(コンクリートブロック練積工) L=6.5m A=9.0㎡ (盛土復旧工) A=13.0㎡	884,520
	若宮地内 農地災害復旧工事料	(コンクリートブロック練積工) L=10.0m A=25.0㎡ (小車運搬) L=60.0m > A=25.0㎡ (盛土復旧工) A=1.0㎡ (敷鉄板設置・撤去) A=31.0㎡	1,236,600

【施工前】



【施工後】



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 山原地区と若宮地区の農地2件の畦畔崩壊の復旧工事を実施した。
課題と改善について 工事が次年度にわたる場合が多いため、災害復旧工事が速やかに実施できる体制を整備する。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 平成26年度に発生した台風11号豪雨により被災した地区(農地3件、施設3件)について速やかに復旧工事を実施する。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	就労支援事業			決算書頁	222
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	14 就労支援の充実と勤労者福祉の向上を図ります				
所管部・課	市民生活部 産業振興課		作成者	課長 人見 巖	

2. 事業の目的

職業紹介や求人情報の提供による安定した雇用機会の提供

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	18,227	19,622	△ 1,395	一般財源	15,184	16,581	△ 1,397	
	事業費	6,663	7,900	△ 1,237	国県支出金				
	職員人件費				地方債				
	公債費	11,564	11,722	△ 158	特定財源(都市計画税)				
	職員数(人)				特定財源(その他)	3,043	3,041	2	
参考	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	就労支援事業	細事業事業費	6,663			
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		主に市内求職者				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)						
(3)参画と協働の主な手法(実績)		審議会等の付属機関				
(4)26年度の取組と成果						
【取組1】川西しごと・サポートセンター						
川西しごと・サポートセンターにおいて、若年者等をはじめ求職者全般を対象に、国(兵庫労働局)の職業相談・職業紹介等を一体的に実施した。						
(内容)						
○川西市						
・市の各種支援制度の相談及び情報提供						
・各種(生活・介護等)相談及び支援機関の情報提供						
・上記相談者のうち、就労希望者等の職業相談への誘導						
・労働相談(月2回)						
・キャリアカウンセリング(月4回)						
・再就職のためのスキルアップセミナー(年3回程度)						
○兵庫労働局						
・求人検索機(7台)による求人情報の提供						
・求職者に対する職業相談、職業紹介						
・求職者のうち、必要と思われる者に対する市実施の労働相談等への利用勧奨						
・市が要望する一体的実施事業に係る地域の効果的な雇用対策を図るため、若者の就労をサポートする就職面接会、就職支援セミナー等を事業所へ委託して実施						
(実績)・川西しごと・サポートセンター 実績						
(平成24年4月1日付けで「川西パートバンク」から、「川西しごと・サポートセンター」に名称変更)						
項目	H22	H23	H24	H25	H26	(人、件)
来所者数	32,573	29,338	34,881	31,588	28,595	
新規求職者数	2,769	2,938	1,820	1,561	1,537	
採用件数	803	1,076	1,212	1,002	1,003	

【取組2】若者キャリアサポート川西

川西しごと・サポートセンター内に、「若者キャリアサポート川西」を併設し、合同就職面接会や就職支援セミナーの開催など、概ね40歳未満の若年者の就職をサポートする事業を実施した。

(内容)

○合同就職面接会

○就職支援セミナー

・応募書類作成支援 年間3回開催

・面接技術向上支援 年間3回開催

・職業意識啓発支援 年間3回開催

○若者サポート事業

・相談窓口の設置 (コーディネーターによる受付、利用登録、専門家による相談予約)

・キャリア形成支援のための相談 (キャリアカウンセリング 週5日)

・心理面での相談 (心理カウンセリング 週2日)

・労働条件、生活支援相談 (社会保険労務士による労働生活相談 週1日)

(実績) ・若者キャリアサポート川西 実績

項目	H24	H25	H26	(人、件)
相談来所者数	474	621	802	
新規登録者数	164	152	137	
採用件数	53	89	92	

項目	H24	H25	H26	(人、件)
合同就職面接会in川西	272	64	115	※H24は、2回開催
就職支援セミナー	59	49	49	
キャリアカウンセリング	351	458	433	
心理カウンセリング	30	22	21	
労働・生活相談	14	17	20	
合計	726	610	638	

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 景気回復を背景に雇用情勢が改善傾向にある中で、川西しごと・サポートセンターの来所者数、新規求職者数及び採用件数が、一体的事業が始まった24年度に比べ減少した。利用者満足度調査では、「満足している」と回答した利用者が7割を超える結果となっており、利用者の評価を得ている。
課題と改善について 景気回復を背景に雇用情勢が改善傾向にあるものの、若年者を始め、多くの就業希望者が存在しているため、川西しごと・サポートセンター及び若者キャリアサポート川西の、さらなる施設のPRとともに就職に関する情報提供を行い、利用促進を図る必要がある。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 川西しごと・サポートセンター及び若者キャリアサポート川西は、市の雇用対策の拠点として重要であり、施策目標達成に有効な事業であることから、引き続き、兵庫労働局、ハローワーク伊丹と連携しながら、ホームページの活用や、各種講座、合同就職相談会等の積極的なPR等、周知に努めることで、就職率の向上を図る。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	労働者支援事業			決算書頁	224
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	14 就労支援の充実と勤労者福祉の向上を図ります				
所管部・課	市民生活部 産業振興課		作成者	課長 人見 巖	

2. 事業の目的

勤労者支援及び就労支援事業

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	36,982	35,247	1,735	一般財源	27,108	23,938	3,170	
	事業費	19,636	17,543	2,093	国県支出金				
	職員人件費	17,346	17,704	△ 358	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	2	2		特定財源(その他)	9,874	11,309	△ 1,435	
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	労働者支援事業	細事業事業費	10,056																																																
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内在住の勤労者及び求職者または在勤者																																																		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)																																																			
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償																																																		
(4)26年度の取組と成果	【取組1】キャリアカウンセリング、労働相談 実績 市内在住または在勤者を主対象に、専門カウンセラーによるキャリアカウンセリング、また労使間トラブルの解決の場として労働相談、各種セミナーを実施。 キャリアカウンセリング及び労働相談の利用者数 ※()内は延べ相談回数 <table> <tr> <th>項目</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr> <tr> <td>キャリアカウンセリング</td><td>88(114)</td><td>76(93)</td><td>105(119)</td></tr> <tr> <td>労働相談</td><td>19(19)</td><td>22(23)</td><td>31(32)</td></tr> </table> 【取組2】川西市中小企業勤労者福祉サービスセンター 市内中小企業で働く従業員の福利厚生支援として、中小企業勤労者福祉サービスセンター(パセオかわにし)において、健康管理事業や慶弔給付事業、各種チケットのあっせん等を実施。 (実績) 川西市中小企業勤労者福祉サービスセンター会員数及び利用者数 <table> <tr> <th>項目</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr> <tr> <td>事業所数</td><td>101</td><td>102</td><td>96</td></tr> <tr> <td>会員数</td><td>1,821</td><td>1,880</td><td>1,817</td></tr> <tr> <td>自主事業参加者数</td><td>296</td><td>259</td><td>350</td></tr> <tr> <td>健康管理事業利用者数</td><td>1,185</td><td>1,238</td><td>1,210</td></tr> <tr> <td>各種チケットあっせん枚数及び給付件数</td><td>2,839</td><td>2,987</td><td>3,085</td></tr> </table> 【取組3】産業保健推進事業 産業保健推進事業として、市内事業所のうち従業員50人未満の小規模事業所の従業員を対象に、健康診断を実施。 (実績) 産業保健推進事業 申込事業所数及び受診者数 <table> <tr> <th>項目</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr> <tr> <td>申込事業所数</td><td>36</td><td>31</td><td>38</td></tr> <tr> <td>受診者数</td><td>241</td><td>251</td><td>256</td></tr> </table> 【取組4】地域人づくり・雇用拡大事業費補助金 地域人づくり・雇用拡大事業費補助金を活用し、事業所の経営体質を強化するために中小企業等経営力改善事業を実施。 (実績)川西市商工会が個別アドバイス等を必要とする事業者を募集し、専門家とともに売り上げ増などにつながる支援を5事業所に行った。			項目	H24	H25	H26	キャリアカウンセリング	88(114)	76(93)	105(119)	労働相談	19(19)	22(23)	31(32)	項目	H24	H25	H26	事業所数	101	102	96	会員数	1,821	1,880	1,817	自主事業参加者数	296	259	350	健康管理事業利用者数	1,185	1,238	1,210	各種チケットあっせん枚数及び給付件数	2,839	2,987	3,085	項目	H24	H25	H26	申込事業所数	36	31	38	受診者数	241	251	256
項目	H24	H25	H26																																																
キャリアカウンセリング	88(114)	76(93)	105(119)																																																
労働相談	19(19)	22(23)	31(32)																																																
項目	H24	H25	H26																																																
事業所数	101	102	96																																																
会員数	1,821	1,880	1,817																																																
自主事業参加者数	296	259	350																																																
健康管理事業利用者数	1,185	1,238	1,210																																																
各種チケットあっせん枚数及び給付件数	2,839	2,987	3,085																																																
項目	H24	H25	H26																																																
申込事業所数	36	31	38																																																
受診者数	241	251	256																																																

(単位:千円)

＜細事業2＞	勤労者住宅資金融資あっせん事業	細事業事業費	9,580	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内に自ら居住する住宅を建築し、または、購入しようとする勤労者 ほか			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)				
(3)参画と協働の主な手法(実績)				
(4)26年度の取組と成果				
【取組1】勤労者住宅資金融資あっせん制度				
昭和53年度に、勤労者の持家促進を支援するための住宅融資あっせん制度として発足させたが、平成15年度に新規貸付を終了しており、現在は返済及び残高に応じた預託のみを行っている。				
(実績) 勤労者住宅資金融資あっせん制度(H26.3月末残高)				
貸付年度	件数	債務残高(円)	預託金(円)	預託倍率
4	1	2,358,971	589,743	1/4
5	3	7,388,274	1,847,069	1/4
6	1	3,513,905	878,476	1/4
7	4	8,072,145	2,018,036	1/4
合計	9	21,333,295	5,333,324	
				≒ 5,330,000 …①
貸付年度	件数	債務残高(円)	預託金(円)	預託倍率
9	3	8,996,060	1,799,212	1/5
11	1	2,147,632	429,526	1/5
12	2	10,146,619	2,029,324	1/5
合計	6	21,290,311	4,258,062	
				≒ 4,250,000 …②
				①+②= 9,580,000 円

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☒ 想定以上の成果を達成できた。 ☐ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 労働相談及びキャリアカウンセリングの利用者数は前年度より増加した。また、キャリアカウンセリングの利用者アンケートでは、アンケート回答者全員が「参考になった」と答える結果となっており、想定以上に高い満足度が得られている。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について 労働相談やキャリアカウンセリングは、利用のタイミング等で実績が上がらない面があり、実施日の周知が必要である。中小企業勤労者福祉サービスセンターの利用者が、市内事業所数全体と比較すると加入率が低いことから、今後さらに加入促進に取り組む必要がある。また、産業保健推進事業における健康診断については、中小企業の勤労者の健康を維持するため、さらに利用事業所、利用者数を上げる必要がある。	27年度以降における具体的な方向性について 労働相談・キャリアカウンセリングにおいては、引き続き広報等で周知するとともに、キャリアサポート川西との連携により相談件数の増をめざす。 また、中小企業勤労者福祉サービスセンターは、市内中小企業で働く勤労者と事業主の福利厚生を向上を図るために必要な事業であることから、引き続きサービスの内容の充実に努め、利用者増加をめざす。 さらに、新規会員を獲得するために、新規加入した事業所への特典提供や、ダイレクトメールによる勧誘を実施する。中小企業向けの健康診断については、事業所に直接働きかけるなど、勤労者の利用増を図る。
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	国内交流事業			決算書頁	114
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

姉妹都市等との交流による友好、親善の促進

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	609	210	399	一般財源	609	210	399	
	事業費	609	210	399	国県支出金				
	職員人件費				地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
	職員数(人)				特定財源(その他)				
参考	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	国内交流事業	細事業事業費	609
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の市民全般		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)	ボランティア・NPO等との連携		
(4)26年度の実績と成果			
○千葉県香取市(旧佐原市)との交流			
・平成2年8月1日に、旧佐原市(平成18年3月27日、合併により香取市)と姉妹都市提携し、交流を継続していたが、提携20周年を迎えた平成22年7月17日に再度、香取市と姉妹都市提携協定書を取り交わし、交流の継続を確認した。			
・広報誌などの情報交換をととして交流を図った。			
・川西市国際交流協会で、香取市の特産品のサツマイモ「紅アズマ」「さわらっこ」を斡旋販売し、香取市の紹介に努めた。			
・「川西まつり」に香取市から来訪し、サツマイモ等の特産品を販売し、香取市のPRを行った。			



香取市「佐原の大祭」



香取市特産 サツマイモ

○「全国川西会議(ネットかわにし)」

・「川西」という名のもと、お互いが連携意識を高めるとともに、共同してまちの資源や特質を活かし、住民や行政など幅広い分野での交流をとおして、相互に豊かなまちづくりをめざすため、平成9年11月10日に設立された。例年の総会等の開催をとおして、構成市町の交流を図っている。

〔平成10年11月19日「災害応急対策活動の相互支援に関する協定」を締結〕

・全国川西会議(ネットかわにし)の総会が山形県川西町で開催され、構成市・町の相互のまちづくりや交流について協議した。また、各市町の若手職員が同町に集まり、研修を行い、若手職員間の情報交換や交流ができた。

・少年軟式野球連盟が「古田旗争奪少年軟式野球大会」に山形、奈良の各少年野球チームを招待し、交流した。



平成26年度全国川西会議

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 千葉県香取市とは川西市国際交流協会のサツマイモ等の販売や川西まつり等を通じて香取市のPRを図った。 全国川西会議は総会が山形県川西町で開催され、構成自治体とは、例年同様、継続的に交流ができた。また、新規事業として、若手職員の研修を実施した。
課題と改善について 国内交流については、川西市国際交流協会で事業を実施しているが、多くの双方の市民が参加しているとは言えない。さらに市民を巻き込む方策を相手の自治体と考える必要がある。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 香取市との交流については、市民主体の交流方法を香取市と協議していく。 全国川西会議については、27年度に奈良県川西町で総会を開催予定である。また、川西市国際交流協会が新潟県十日町市の訪問を計画されている。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	観光推進事業			決算書頁	238
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

本市の歴史や芸術・文化の発信により観光振興を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	5,553	8,141	△ 2,588	一般財源 国県支出金 地方債 特定財源(都市計画税) 特定財源(その他)	一般財源	5,553	8,141	△ 2,588
	事業費	5,553	8,141	△ 2,588		国県支出金			
	職員人件費					地方債			
	公債費					特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)					特定財源(その他)			
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	観光推進事業	細事業事業費	5,553
(1) 対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	全市民および来街者		
(2) 対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3) 参画と協働の主な手法(実績)	ボランティア・NPO等との連携	その他(きんたくんプロジェクト)	
(4) 26年度の取組と成果			
○観光事業の育成発展と観光行政の推進を図るため、川西市観光協会へ補助金を交付した。 平成26年度末現在77会員が加入。観光プリンセスがイベント(金時まつり等)に14回参加した。 ○市内外や地域での各種イベントに川西の元気いっぱいキャラクター「きんたくん」を活用するなど、地域の活性化にむけた事業展開を行うとともに「きんたくん」のPRを図った。 ○「川西学検定」市民に本市のことを知ってもらうため、第3回「川西学検定」として、本市の歴史や自然などを紹介し、検定問題を掲載した冊子を広報誌と一緒に配布した。 応募総数 861人 平均点 28.6点(30点満点) ○市内のハイキングコース散策を楽しめるよう、コースをパンフレット、ホームページ等で紹介した。 ○園田競馬の「名称付市町特別競走」へ協賛し、本市の観光PRを行った。 ○「猪名川上流の地域資源を活用するネットワーク会議(いいな里山ねっと)」(川西市、猪名川町、豊能町、能勢町の行政、商工会、観光協会、兵庫県、大阪府、能勢電鉄、阪急バス、一庫ダムで構成)で、構成団体とともに観光キャンペーンや情報発信事業等を行った。			
			
ゆるキャラグランプリ2014 in あいち セントレア		ご当地キャラ博 in 彦根 2014	

○阪神北地域ツーリズム振興協議会事業

・阪神北県民局と川西市、伊丹市、宝塚市、三田市、猪名川町の4市1町や観光協会等で組織する「阪神北地域ツーリズム振興協議会」事業で、構成団体とともに神戸（三宮）で開催された観光PRフェア及びフェアのPR隊に参加。また、大阪国際空港で「大阪国際空港インフォメーション」に参加し、特産品販売や各市町の観光リーフレットを配布するなど、情報発信を行った。

【観光PRフェア】

日時／平成26年9月6日（土） 場所／神戸・三宮：さんちか夢広場

内容／阪神北地域ツーリズム振興協議会の構成団体で観光のPR等を行った。



神戸新聞社へ観光PR隊が訪問

【大阪国際空港インフォメーション】…阪神北地域の魅力を空港来場者等にPRした。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
開催日	11/1～11/30	11/1～11/30	11/1～11/30	11/1～11/30	11/1～11/30
来場者数	7, 244人	6, 879人	5, 429人	4, 842人	2, 742人

○きんたくんの着ぐるみ貸出件数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市内イベント	104	110	99	141	148
市外イベント	25	16	29	22	5
合計	129	126	128	163	153



空港インフォメーション

○東谷ズム

東谷地域の活性化をめざした「ヒガシタニズム実行委員会」に補助金を交付した。

日時／平成26年11月22日（土）

場所／郷土館及び山下駅から郷土館までの沿道

来場者数／1,400人

内容／郷土館や東谷地域の歴史など地域資源を有効活用し、音楽演奏等を通じて東谷地域の活性化を図った。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価（達成度）	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 本市のキャラクター「きんたくん」のデザインを広く利用してもらったり、着ぐるみを貸出したり、イベントに参加するなど、本市のPRに努めた。 本市の自然や歴史的資源等を活用し、川西市のPRやイメージアップを図った。 阪神北ツーリズム振興協議会などと連携し、広域的な観光PRを行った。
※「自己評価（達成度）」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。 課題と改善について さらに「きんたくん」を活用する場や機会を増やし、本市をPRしていく必要がある。 「いいな里山ねっと」構成団体等との連携手段が必要である。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 本市の魅力を生かした観光PR方法をさらに検討していく。川西のキャラクター「きんたくん」は徐々に川西市のキャラクターとして定着しつつあるが、広く着ぐるみの貸し出しやデザイン使用を継続し、さらに市のPRに努める。 阪神北県民局管内の市町との連携した観光PRを継続しつつ、いいな里山ねっとの構成団体等との連携手段を検討し、広域的な観光PRに努める。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	イベント支援事業			決算書頁	238
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

歴史的・文化的資源を活用し「清和源氏発祥の地 川西」を広くPRする

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	19,707	16,880	2,827	一般財源		19,521	15,401	4,120
	事業費	11,034	8,028	3,006	国県支出金				
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)		186	1,479	△ 1,293
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	川西市源氏まつり	細事業事業費	8,004		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市民及び来街者				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	50, 000人				
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償			
(4)26年度の取組と成果					
「清和源氏発祥の地 川西」を市内外にさらにPRすることを目的とし、第50回を記念して、総合体育館駐車場をスタートし、川西能勢口駅周辺での懐古行列を中心としたイベントを、市観光協会と共催で4月13日に実施した。					
・午後からの懐古行列に先駆けて、総合体育館駐車場の特設ステージで演武や舞踊、源氏武者や三御前などのお披露目等のイベントを開催するとともに、市民等の団体による屋台も出店するなど、源氏まつりを盛り上げた。					
・八幡太郎義家役に市内在住の20歳の若武者を公募した。姫役(3人)の選考会にも多数の応募があった。					
・写真コンクールにおいては、市内外から多数の応募があり、市役所1階市民ギャラリーで入賞作品を展示した。					
【源氏まつりの観覧者数の推移】					
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
開催日	4月11日(日)	4月17日(日)	4月8日(日)	4月14日(日)	4月13日(日)
観覧者数	38, 000人	35, 000人	40, 000人	45, 000人	50, 000人

(単位:千円)

＜細事業＞	川西おもろ能	細事業事業費	3,030																		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	小学4年生以上の市内外の申込者																				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)																					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償																			
(4)26年度の取組と成果																					
・けやき坂中央公園にある芸術作品「おもろ座石舞台」を活用し、伝統芸能である薪能の鑑賞の機会を提供するとともに、芸術文化の創造と振興に寄与することを目的に、10月4日に実施した。 ・国際交流協会が招待した留学生等をはじめ、市内外の多くの方に伝統芸能(文化)の鑑賞機会を提供した。 ・また、平成20年度から行っている会場内で「川西おもろ能参加協力金」の募金活動を行い、130,688円集まった。 【演目】 仕舞:巴(ともえ)、吉野静(よしのしずか) 狂言:蝸牛(かぎゅう) 能:頼政(よりまさ) 【おもろ能の観覧者数の推移】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日</td> <td>10月2日(土)</td> <td>10月1日(土)</td> <td>10月6日(土)</td> <td>10月5日(土)</td> <td>10月4日(土)</td> </tr> <tr> <td>観覧者数</td> <td>506人</td> <td>563人</td> <td>373人</td> <td>431人</td> <td>563人</td> </tr> </tbody> </table>					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	開催日	10月2日(土)	10月1日(土)	10月6日(土)	10月5日(土)	10月4日(土)	観覧者数	506人	563人	373人	431人	563人
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度																
開催日	10月2日(土)	10月1日(土)	10月6日(土)	10月5日(土)	10月4日(土)																
観覧者数	506人	563人	373人	431人	563人																
																					

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 「源氏まつり」は、平成26年度は第50回記念事業として、市制施行60周年に合わせて、川西能勢口駅周辺に場所を変更して実施し、市内外から多数の観客に「源氏のふるさと 川西」をPRすることができた。 「川西おもろ能」は前年より約130人多い観客が来場し、日本の伝統文化に親しんでいただくことができた。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について 「源氏まつり」については、多田神社周辺で毎年実施しているが、駐車場で休憩後、復路には観客が減ってしまい盛り上がり欠けるという課題がある。 「川西おもろ能」については、観覧者は26年度においては前年より増加したものの、始まった当初の人数に比べると少ないため、さらに周知を図る必要がある。	27年度以降における具体的な方向性について 「源氏まつり」は、平成27年度は例年通り多田神社周辺で開催するが、休憩せずにターンして往復するコースに変更した。 「川西おもろ能」は、川西の秋のイベントとして定着しているが、SNSを活用するなど、さらなるPRに努める。
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	猪名川花火大会事業			決算書頁	238
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

歴史的合同イベントにより多くの来訪者に本市をPRする

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	10,094	24,779	△ 14,685	一般財源		10,094	24,779	△ 14,685
	事業費	1,421	15,927	△ 14,506	国県支出金				
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	猪名川花火大会事業	細事業事業費	1,421
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の来場者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会		
(4)26年度の実績と成果	池田市との共催で昭和23年から始まり、平成26年度で第66回目の開催となったが、当日午後の豪雨により河川敷が冠水し、順延もできなかったため、花火大会を中止した。		

【花火大会観覧者推移】

(単位:人)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
観覧者(川西市側)	50,000	43,000	47,000	52,000	雨天中止
観覧者(池田市側)	65,000	60,000	70,000	72,000	
観覧者(合計)	115,000	103,000	117,000	124,000	



写真は平成25年度の花火大会



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☐ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☒ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 共催の池田市や関係機関と調整し、河川敷の状況から、順延も不可能と判断したため、中止をせざるをえなかった。 また、当日の中止・催行決定の問い合わせが多数あるため、対応策として、26年度から自動音声案内(テレドーム)を導入したところ、約51,000件に対応できた。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について	
多数の観客が見込まれることから、安全対策をさらに強化することが求められる。今後とも、事故なく安全に実施できるよう、一層の安全対策を川西警察等、関係機関と協議し実施する。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 中止決定時間について、池田市や関係機関と協議する。また、事故なく安全に実施できるよう、川西警察等、関係機関と協議し、一層の安全対策を図る。 近年、警備等に対する経費などが上昇しているため、寄付金などの収入面について検討する。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	知明湖キャンプ場管理運営事業			決算書頁	238
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

野外における活動を通じて、健全な心身を養うとともに、観光の推進と地域の振興に資する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	7,293	6,771	522	一般財源		7,293	6,771	522
	事業費	7,293	6,771	522	国県支出金				
	職員人件費				地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)				特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	知明湖キャンプ場管理運営事業		細事業事業費	7,293	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		知明湖キャンプ場利用者			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		13,884人			
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)26年度の取組と成果					
・青少年および市民がより身近に自然体験活動・野外活動を実施する機会を提供した。					
○使用期間 3月20日～11月23日					
○休業日 火曜日 ※ただし、火曜日が祝日の場合は翌日休業 ※4月26日～5月5日及び7月16日～8月31日の火曜日は営業。 (平成23年度より、ゴールデンウィーク、夏休み期間中は、火曜日も営業。)					
○使用時間 日帰り／午前9時～午後5時 宿 泊／初日の午後2時～4時までに入場、最終日の午後1時まで退場。					
○使用料					
1名あたりの料金					
区分	テント	利用日	利用者区分	高校生以上	中学生以下
日帰	—	全日	川西・伊丹・宝塚・ 三田・猪名川・豊能町住民	300円	150円
			上記以外	600円	300円
宿泊	個人テント 持込	全日	川西・伊丹・宝塚・ 三田・猪名川・豊能町住民	300円	150円
		平日	上記以外	600円	300円
		休前日		900円	450円
	キャンプ場 テント使用	全日	川西・伊丹・宝塚・ 三田・猪名川・豊能町住民	600円	300円
		平日	上記以外	1200円	600円
		休前日		1800円	900円

※休前日は、宿泊日が土曜日及び祝日の前日をいう。

○平成26年度利用料収入 3,337,000円

○平成26年度指定管理料 6,448,000円

○知明湖キャンプ場利用者数

(単位:人)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
川西市	4,512	4,413	4,731	4,444	4,718
川西市以外	4,762	5,618	6,130	6,369	7,678
全額免除	946	1,158	1,104	1,175	1,488
合 計	10,220	11,189	11,965	11,988	13,884



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 多数の方にキャンプ場を利用していただき、自然に親しむ機会を提供できた。
課題と改善について 施設利用者の安全面や利便性を考慮し、また、利用者増のためにも、施設の修繕等の検討を行う必要がある。 利用者数は横ばいであり、今後とも市内外からの集客を高めるためのPR方法や指定管理者による自主事業の展開等の方策が課題である。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について より快適にさらに多くの方が利用されるよう、シャワー施設等の修繕など、計画的に施設・設備の修繕等を行っていく。 サービスの充実や利用者増に取り組むよう、指定管理者と協議を進めていく。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	知明湖活用推進事業			決算書頁	242
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	都市整備部 公園緑地課		作成者	課長 茨木 実	

2. 事業の目的

知明湖周辺の各施設の維持管理を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	16,345	16,658	△ 313		一般財源	16,345	16,658	△ 313
	事業費	7,672	7,806	△ 134		国県支出金			
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179		地方債			
	公債費					特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)	1	1			特定財源(その他)			
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	知明湖周辺施設維持管理事業	細事業事業費	7,672
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	知明湖周辺の国崎せせらぎ地区・龍化溪流地区・なぎさ出合地区		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	知明湖周辺の施設管理		
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)26年度の実績と成果	国事業の一庫ダム湖活用環境整備事業により整備されたトイレなどの施設の維持管理・除草及びゴミ収集を、一般財団法人一庫ダム湖周辺環境整備センターに委託して実施した。		

国崎せせらぎ地区



龍化地区



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 施設の適正な維持管理を行った事により、ダム湖周辺を訪れた人々に対して、本市の恵まれた自然環境をPRする事ができた。
課題と改善について 今後とも引き続きダム湖周辺の適正な維持管理を継続していく必要がある。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について ダム湖周辺を訪れる人々が快適に利用できるよう、ダム湖周辺の施設の維持管理等を今後も適正に実施する。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	ダリヤ育成事業			決算書頁	242
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	都市整備部 公園緑地課		作成者	課長 茨木 実	

2. 事業の目的

山形県川西町との友好の証であるダリヤを育成し、黒川ダリヤ園の知名度を高めることにより、本市北部の里山や環境をPRするとともに、地域の活性化を図る
--

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	15,063	15,242	△ 179	一般財源		15,063	15,242	△ 179
	事業費	6,390	6,390		国県支出金				
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	ダリヤ育成事業	細事業事業費	6,390		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	黒川ダリヤ園(黒川字落合389番地)				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	黒川ダリヤ園入場者数(13,996人)				
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償				
(4)26年度の取組と成果					
黒川地域で黒川ダリヤ園を開園した。(平成26年9月10日～平成26年11月3日)					
同期間の黒川ダリヤ園入場者数は、13,996人。					
ダリヤ園入場者数 (単位:人)					
	H22	H23	H24	H25	H26
入場者数	11,730	17,070	23,880	16,344	13,996
黒川ダリヤ園には、昨年同様、来場者が快適に見学できるよう休息テントや、簡易トイレを設置した。					
また、パンフレットを配布、ポスターを公共施設や公共交通機関等に掲示するとともに広報誌への掲載をするなどダリヤ園のPRに努めた。					

平成26年度 開園中の様子



ダリヤ品種「千秋くじゃく」



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 球根の植え付けから増殖収穫までを地元の活動により行うことができ、次年度へ良質な球根を引き継ぐことができた。 また、開園期間中の台風被害についても、地元の対応により最小限に抑えることができ、ダリヤのPRに努めることができた。
課題と改善について 黒川ダリヤ園は地域団体に補助金を交付して運営しているが、持続可能な運営体制の確立及び人材の確保が課題となっている。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 黒川ダリヤ園が市の重要な観光資源として認知されるようになり、今後の施設運営及び施設整備等の基本計画を策定する。 また、スタッフの人材確保については、ダリヤ栽培教室を実施し、将来のスタッフ候補の育成を図る。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	文化振興事業			決算書頁	112
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

芸術文化の振興及び市民の芸術文化活動への支援

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	128,719	113,246	15,473	一般財源	114,852	107,740	7,112	
	事業費	111,373	95,542	15,831	国県支出金				
	職員人件費	17,346	17,704	△ 358	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	2	2		特定財源(その他)	13,867	5,506	8,361	
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	文化振興事業	細事業事業費	25,498
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内外の市民全般	
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)		補助、助成、報償	
(4)26年度の取組と成果			
・地域文化の向上のため、川西市文化協会、川西市吹奏楽団、川西市民合唱団、黒川地区地域文化(スポーツ)振興事業運営委員会に対して補助金を交付した。			
・若者の音楽活動を支援するとともに、全国にオーディションを発信することにより川西市をPRするため、第2回「川西市アーティストオーディション」を開催した。出演者募集期間 3月1日～6月25日 エントリー数 213組 ①音源審査 ②二次予選 7/12 バンド部門 6組 7/13 ボーカル部門 5組、アコースティック部門 4組 を選出し決勝へ。③決勝 8月30日みつなかホール ライブ選考(公開)入場者のべ330名 総合優勝「君がそうなら僕はこう」、各部門の1位を決定。＊総合優勝者には希望により活動ツール制作、ライブサポートを実施。			
・市制施行60周年記念演奏会「西本智実指揮 イルミナートフィルハーモニーオーケストラ」を9月26日にみつなかホールで開催し、478人の観客に大好評をいただいた。			
・川西市市制施行60周年記念ミュージカル「続 川西の金太郎～大蜘蛛編～」を川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」実行委員会主催により12月13日、14日に開催した。2回公演で、1288人の観客に楽しんでいただいた。			

＜細事業2＞	文化・スポーツ振興財団支援事業	細事業事業費	80,160
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内外の市民全般	
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)26年度の取組と成果			
(公財)川西市文化・スポーツ振興財団が行う次の活動に対し、補助金を交付し、支援を行った。			
①市民に優れた音楽や舞台芸術の鑑賞機会を提供した。			
②地域の芸術、文化団体等の自主企画・運営による市民参画型の芸術、文化事業を実施した。			

【集客率】	(単位：％)				
項目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
芸術、文化鑑賞事業	87.2	73.1	73.6	71.6	76.0
育成及び援助事業	81.1	78.3	77.3	83.0	85.6
合 計	84.9	75.5	75.2	75.9	80.3

【自己財源率】	(単位：％)				
項目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
自己財源率(％)	36.1	32.1	36.7	31.5	33.6

※自己財源率の算出に下記の助成金額は含んでいない。

7,300千円(22年度) 7,200千円(23年度) 5,830千円(24年度)

5,140千円(25年度) 5,350千円(26年度)

(単位:千円)

〈細事業3〉	ギャラリーかわにし運営事業	細事業事業費	3,902		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内外の市民全般			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)26年度の取組と成果					
芸術活動の発表の場を提供し、同時に市民が多くの優れた作品に触れる機会を提供した。					
使用の範囲:美術に関するもの 使用期間:水曜日～月曜日まで					
開館時間:午前10時～午後7時まで<最終日は、午後5時まで>					
使用料(6日間) 第1展示室 市内利用者 60,000円 市外利用者 80,000円					
第2展示室 市内利用者 48,000円 市外利用者 64,000円					
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市内利用者件数	96	97	90	95	90
市外利用者件数	4	3	8	3	8
合 計	100	100	98	98	98
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
年間利用可能枠数	100	100	98	98	98
利用率(%)	100	100	100	100	100

〈細事業4〉	川西市展の実施	細事業事業費	1,813		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内外の市民全般			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		283点(出品点数) 1,310人(入場者数)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)26年度の取組と成果					
文化会館・中央公民館を会場に、洋画・日本画・書・立体・工芸・写真・現代美術の7部門、1部門1点作品を募集した					
(16歳以上対象)。					
審査後、入選・入賞作品を展示、最終日に表彰式を行った。					
展示期間は5日間(2月10日から14日まで)で、1,310人の入場者があり、盛況のうちに終了した。					
また、25年度より高校・大学・専門学校生の出品料を500円にした。(一般は1500円)					
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
洋 画	80	79	78	93	83
現代美術	14	5	11	16	17
日本画	21	26	25	32	19
書	18	9	9	15	8
立 体	4	4	1	7	2
工 芸	30	18	21	19	13
写 真	139	136	129	153	141
合 計	306	277	274	335	283

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 文化関係各団体とも様々な事業を展開し活動している。 アーティスト・オーディションについては、第1回よりエントリー数が2倍以上になった。 市制施行60周年記念事業の演奏会、金太郎ミュージカルとともに多数の観客に会場いただいた。 文化・スポーツ振興財団の自主事業については、集客率はほぼ横ばいである。 ギャラリーかわにしは、100%の利用率であった。
課題と改善について 各団体が、今後より一層、自主的な運営、自立をしていくことが望まれる。 財団は、今後も、新たな事業を企画したり、事業のPRに力を入れ、さらに集客に向けて取り組む必要がある。 ギャラリーかわにしは、施設が老朽化しているため、計画的な施設の修理・更新を進めていく。	27年度以降における具体的な方向性について 各文化関係団体が、自主的な運営、自立できるよう助言していく。 財団については、スポーツ部門との共同の事業を展開するなど、利用者の幅広いニーズに応える新たな事業の創出などに取り組み、集客を図るよう、財団と協議を進めていく。 ギャラリーかわにしの空調機の入替修繕を27年度に予定している。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	芸術文化施設維持管理事業			決算書頁	112
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

芸術文化施設の効果的・効率的な管理、運営

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	149,775	163,766	△ 13,991	一般財源		103,428	109,001	△ 5,573
	事業費	146,414	158,969	△ 12,555	国県支出金				
	職員人件費				地方債		4,400	12,900	△ 8,500
	公債費	3,361	4,797	△ 1,436	特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)				特定財源(その他)		41,947	41,865	82
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	芸術文化施設維持管理事業	細事業事業費	146,414
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の市民全般		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)26年度の取組と成果			
・芸術文化施設(文化会館・みつなかホール)の適正な維持管理に努めるとともに、市民が快適に使用できるよう環境を整えた。 また、貸館サービスの提供を充実させるため、みつなかホール調光操作卓入替、舞台機構入替修繕を行った。 ・公益財団法人 川西市文化・スポーツ振興財団が芸術文化施設の維持管理を行った。			

【施設使用料収入】		(単位:円)			
項 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
文化会館	10,823,710	12,665,090	12,130,510	14,054,410	14,238,800
みつなかホール	24,584,130	26,554,930	25,252,770	24,661,770	24,882,670
計	35,407,840	39,220,020	37,383,280	38,716,180	39,121,470

【指定管理料】		(単位:円)			
項 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
文化会館	34,182,990	37,987,170	36,284,379	37,092,543	40,407,723
みつなかホール	73,106,151	72,407,801	72,688,011	75,654,913	75,936,350
計	107,289,141	110,394,971	108,972,390	112,747,456	116,344,073

【施設利用率(%)】
(文化会館)

施設名	25年度	26年度	施設名	25年度	26年度
大ホール	72.8	73.7	和室1 *	0.0	0.0
大集会室 *	14.5	27.7	和室2 *	23.4	15.5
レセプションルーム	35.5	35.8	講座室 *	13.0	10.8
第1会議室 *	14.7	21.8	調理室 *	10.1	7.3
第2会議室 *	9.2	15.5	第1文化セミナー室	61.3	62.7
第3会議室 *	14.1	17.8	第2文化セミナー室	41.9	47.7
第4会議室 *	46.2	68.0	第3文化セミナー室	87.6	93.4
第5会議室 *	50.3	53.2	第4文化セミナー室	83.8	92.2
			スタジオ	61.6	78.9

* 大集会室、第1～第5会議室、和室1・2、講座室及び調理室は中央公民館との複合施設のため、公民館として利用のない部分での利用状況

(みつなかホール)

施設名	25年度	26年度
ホール	72.9	76.9
文化サロン	88.9	87.5
第1セミナー室	70.1	73.6
第2セミナー室	89.2	83.8
第1スタジオ	86.2	89.7
第2スタジオ	96.6	96.0

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 みつなかホールの調光卓等の入替修繕等を実施し、利用者の利便性の向上を図った。 文化会館大ホール、みつなかホールとも利用率は横ばいであるが、全体として高い利用率を維持していると考えている。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について みつなかホールは平成8年の開館から19年を経過しており、機器・設備の更新時期を迎えていることから、計画的な維持補修を進めていく必要がある。	27年度以降における具体的な方向性について 平成27年度にはみつなかホールのスプリンクラー配管の改修、修繕を計画している。
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生涯スポーツ推進事業			決算書頁	122
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりを進める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	28,979	28,905	74	一般財源		28,879	28,905	△ 26
	事業費	11,633	11,201	432	国県支出金				
	職員人件費	17,346	17,704	△ 358	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	2	2		特定財源(その他)		100		100
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	生涯スポーツ推進事業	細事業事業費	8,264		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市民全般			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	ボランティア・NPO等との連携	補助、助成、報償	その他(スポーツクラブ21運営の支援)		
(4)26年度の取組と成果					
・小学校体育施設の開放 小学校体育施設を、学校教育に支障のない範囲で校区内住民が組織したスポーツ団体に開放し、活動の拠点とした。 老若男女を問わず、多くの市民が小学校体育施設を利用してスポーツ活動を行った。					
小学校体育施設開放利用者数		(単位:人)			
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学校体育施設利用者	249,347	225,930	268,809	246,664	257,611
プール開放利用者数	25,729	24,500	25,063	23,461	22,795
・「スポーツクラブ21ひょうご」事業の推進 小学校区ごとに組織されたスポーツクラブ21の運営を支援し、生涯スポーツの振興を図った。					
スポーツクラブ21会員数		(単位:人)			
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
スポーツクラブ21会員数	6,591	6,223	6,100	6,074	6,084
・スポーツ推進委員の活動、生涯スポーツの普及 月1回の定例会を開催するとともに、資質の向上のため、阪神北地区及び兵庫県のスポーツ推進委員研修会に参加した。 スポーツ推進委員の協力を得て、子どもから高齢者まで楽しく参加できるレクリエーションスポーツ大会を開催した。					
レクリエーションスポーツ大会参加者数		(単位:人)			
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
カローリング大会等(3回)	234	228	246	264	261
・生涯スポーツ指導者の養成 生涯スポーツの普及に欠かせない指導者の養成と資質の向上のため、生涯スポーツ指導者研修会を開催した。					
生涯スポーツ指導者研修会					
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
研修会参加者数(人)	45	45	41	40	39
参加者の平均年齢(歳)	59	57	60	60	60

(単位:千円)

＜細事業2＞	一庫ダム周遊マラソン大会開催支援事業	細事業事業費	3,369		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	マラソン愛好者等				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	3,153人(平成26年度参加者)				
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償			
(4)26年度の取組と成果					
・川西一庫ダム周遊マラソン大会の開催 生涯スポーツ及び競技スポーツの普及の一環として、誰もが体力や年齢に応じて参加できる市民マラソン大会を開催した。 小学生から高齢者まで幅広い世代が参加し、川西市の秋の一大イベントとして盛り上がりを見せた。 26年度よりランナーの安全確保等のため参加定員を3,000名とした(ただし、事務手続上やむをえず多少の超過が発生する)。					
川西一庫ダム周遊マラソン大会参加者					
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
参加者数(人)	2,482	2,491	2,556	3,355	3,153
うち川西市民数(人)	1,245	1,284	1,332	1,150	1,192
川西市民の参加割合(%)	50	52	52	34	38

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 スポーツ推進委員及びスポーツクラブ21と協働して、スポーツを通じた地域の交流の場を確保するとともに、こどもから高齢者まで気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの楽しさを体感してもらう機会を作ることができた。 川西一庫ダム周遊マラソン大会では、定員の設定および受付業務の改善により、参加されるランナーの利便性や安全性を向上することができた。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について スポーツクラブ21については、ここ数年会員数が減少傾向にあり、各クラブの会員数および財源の確保が重要な課題となっている。継続的にクラブ運営を行っていくための改善策について引き続き各クラブとともに検討していく。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について スポーツ推進委員及びスポーツクラブ21と協働して、生涯を通じて楽しめるレクリエーションスポーツがより多くの市民に親しまれるよう、引き続きイベントの開催や備品の貸出などを行う。 川西一庫ダム周遊マラソン大会では、前回大会までのノウハウや参加者等の意見を活かし、参加者および応援者に今後とも安全に楽しんでいただけるよう運営の改善を図る。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	競技スポーツ推進事業			決算書頁	124
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

スポーツ団体の自主的活動を支援し、団体の育成と競技力の向上を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	13,048	13,250	△ 202	一般財源		13,048	13,250	△ 202
	事業費	4,375	4,398	△ 23	国県支出金				
	職員人件費	8,673	8,852	△ 179	地方債				
	公債費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

〈細事業1〉	競技スポーツ推進事業	細事業事業費	4,375		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		競技スポーツ団体及び競技者			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)		その他(市民公益活動団体の事務局)	補助、助成、報償		
(4)26年度の実績と成果					
・スポーツ団体への支援					
川西市体育協会や川西市スポーツ少年団等の自主活動を支援し、競技スポーツ団体の育成と競争力の向上を図った。					
加盟団体数		(単位:団体)			
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
川西市体育協会	29	29	30	30	30
川西市スポーツ少年団	25	25	25	24	25
団体会員数		(単位:人)			
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
川西市体育協会	15,122	15,223	14,609	15,351	13,792
川西市スポーツ少年団	1,007	1,073	1,084	1,071	1,057
・青少年全国大会等出場者への激励					
予選を経て国際大会や全国規模のスポーツ大会に出場する18歳以下の市民を対象に、激励金を支出した。					
青少年全国大会等出場激励金支給者数		(単位:人)			
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
オリンピック	0	0	0	0	0
アジア大会等	0	1	0	2	0
国際大会	0	1	0	0	1
国民体育大会	3	3	0	4	4
全国大会等	40	74	30	64	71
合 計	43	79	30	70	76

・広域スポーツ大会(当番市大会)への助成

阪神間または県下の大会を川西市で開催する団体に対して、大会運営に伴う運営費の一部を助成した。

広域スポーツ大会(当番市大会)開催件数

(単位:件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
開催件数	3	2	1	4	3

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。	26年度の事業の達成状況 スポーツ団体の自主的活動への支援を行うことで、各団体の円滑な運営、及び各競技選手の活動の場づくりに貢献した。 また、青少年全国大会等出場激励金を支給することで、青少年の今後の活躍を激励した。
※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	
課題と改善について 体育協会及びスポーツ少年団の会員数が減少傾向にある。引き続き、スポーツ団体への支援を通して、競技スポーツを行う市民が活動しやすい環境を作ることで選手の活躍を支援する。	27年度以降における具体的な方向性について 対象者が18歳以下に限定されていた全国大会等出場激励金の年齢制限をなくし、より多くの市民を対象としてその活躍を称え、激励する。 また、広報誌等でスポーツ団体の教室や大会の開催等について紹介し、周知に協力することで、活動の場を探す市民とスポーツ団体のマッチングを図る。
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	スポーツ施設管理運営事業			決算書頁	124
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

社会体育施設及び東久代運動公園を適切に維持管理する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内 訳	総事業費	282,361	297,465	△ 15,104	一般財源	219,674	233,718	△ 14,044	
	事業費	264,668	268,505	△ 3,837	国県支出金				
	職員人件費				地方債	8,900		8,900	
	公債費	17,693	28,960	△ 11,267	特定財源(都市計画税)				
	職員数(人)				特定財源(その他)	53,787	63,747	△ 9,960	
参考	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

〈細事業1〉	スポーツ施設管理運営事業	細事業事業費	264,668		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	全市民				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	約160,000人				
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)26年度 of 取組と成果					
・(公財)川西市文化・スポーツ振興財団への支援等 社会体育施設等の維持管理を行い、また市民を対象とした各種スポーツ教室等を開催する、指定管理者の(公財)川西市文化・スポーツ振興財団を支援した。					
施設の使用者数 (単位:人)					
施設名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合体育館	211,480	201,012	191,951	194,810	191,687
市民体育館	59,804	62,880	57,335	56,865	57,788
市民運動場	72,956	70,359	72,498	69,251	76,270
市民温水プール	94,578	94,022	97,958	96,112	98,517
東久代運動公園	84,076	84,672	82,560	41,141	16,143
合計	522,894	512,945	502,302	458,179	440,405
主な施設の使用率(施設使用時間÷施設使用可能時間) (単位:%)					
施設名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合体育館第1体育室	86.8	88.5	88.7	88.6	88.1
市民体育館主競技場	75.4	80.7	77.4	77.2	78.0
市民運動場	68.2	72.5	75.8	75.4	79.4
東久代運動公園(野球場)	36.2	33.9	32.0	30.1	31.2
市民運動場テニスコート	82.0	81.8	81.0	80.2	84.5
東久代運動公園テニスコート	38.6	37.8	34.7	30.1	16.9

・社会体育施設等の維持管理

社会体育施設（総合体育館、弓道場、市民体育館、市民温水プール、市民運動場）及び東久代運動公園の適切な維持管理に努めるとともに、市民が安全で快適に使用できるように環境を整えた。

26年度に実施した施設の主な修繕

（単位：円）

細 節	件 名	金 額
総合体育館	自動販売機給水管撤去修理	10,761
	クーリングタワー修繕	2,827,656
	照明制御端末器修繕	3,663,360
市民体育館	女子シャワー室排気筒修繕	17,734
	自家発電設備修繕	421,200
市民温水プール	女子シャワー室給湯器修繕	483,688
	女子シャワー室天井修繕	744,120
	ベースボードヒーター撤去及びファンコイル取付	799,200
	ベースボードヒーター配管修繕	1,414,800
東久代運動公園	雨水排水及び地先ブロック修繕	167,927

・市民体育館の老朽化による建替工事に関し、建替後の市民体育館のあり方についてPFI業者及び利用者団体等と協議を行った。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価（達成度）	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価（達成度）」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 各社会体育施設の老朽化に伴って、計画的に修繕等を行った。 市民体育館の建替えおよび同運動場のリニューアルに伴い、利用団体等からの意見聴取及び協議等を行った。
課題と改善について 各社会体育施設については、引き続き利用者の安全面を第一に考慮した改修を計画的に行う。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 老朽化に伴う修繕等について、今後とも計画的に、また緊急修繕等についても機動的に対応していく。 市民体育館の建替え等工事に伴い予想される利用者への影響について利用者への周知を図る。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	アステ市民プラザ運営事業			決算書頁	126
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 アステ市民プラザ	作成者	所長 中西 康蔵		

2. 事業の目的

アステ市民プラザの利用者が快適に過ごせるよう施設運営を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	96,463		96,463	一般財源		84,452		84,452
	事業費	62,656		62,656	国県支出金				
	職員人件費	29,952		29,952	地方債				
	公債費	3,855		3,855	特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	3		3	特定財源(その他)		12,011		12,011
	再任用職員数(人)	1		1					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	アステ市民プラザ運営事業	細事業事業費	62,656
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の市民全般		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)26年度 of 取組と成果			
・アステ市民プラザの適正な維持管理に努めるとともに、貸室を市民が快適に使用できるよう環境を整えた。			
【施設使用料収入】		【施設利用率(%)】	
(円)			
項 目	平成26年度	施 設 名	26年度
アステ市民プラザ	10,797,040	アステホール	80.2
		マルチスペース1	70.9
		マルチスペース2	76.4
		ルーム1	44.7
		ルーム2	35.9
		ルーム3	75.5
		ルーム4	46.8
		子育て支援ルーム	98.7
・アステギャラリーを芸術活動の発表の場として提供するとともに、市民が多くの優れた作品に触れる機会を提供した。			
使用の範囲:美術に関するもの			
使用期間:水曜日～月曜日まで			
開館時間:午前10時～午後7時まで(最終日は午後5時まで)			
使用料(6日間) 市内利用者 48,000円 市外利用者 64,000円			
アステギャラリー	平成26年度	アステギャラリー	平成26年度
市内利用者件数	9	年間利用可能枠数	32
市外利用者件数	0	利用率(%)	28
合計	9		

・住民票、印鑑登録証明、課税証明等の正確かつ迅速な各種証明書の交付を行った。

証明書等発行枚数(計)		26年度
内 訳	住民票関連	1,877
	印鑑登録証明書	1,295
	課税等証明書	342
	合 計	3,514

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 平成26年8月に開設した施設であり、貸館利用者の利便性の向上と住民票等の証明書の発行を夜間、休日を含めて行い、市民の利便性の向上を図った。
課題と改善について 開館1年目にもかかわらずアステホールやマルチスペースなど主要な貸室は高い利用率であった。しかしながら、アステギャラリーについては利用率が低い水準となっている。これはアステギャラリーが周知されていないためと考えている。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 今後も貸館利用者の利便性の向上と住民票等の証明書の発行を夜間、休日を含めて行っていく。アステギャラリーの平成26年度の利用率は低い水準であったが、広報、啓発に努め、今後の推移をみて促進を図っていく。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	東久代公園災害復旧事業			決算書頁	344
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 玉田 亮彦		

2. 事業の目的

東久代運動公園供用再開のための災害復旧工事を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		26年度	25年度	比較	財源		26年度	25年度	比較
内訳	総事業費	76,053	16,889	59,164	一般財源	一般財源	10,633	6,903	3,730
	事業費	76,053	16,889	59,164		国県支出金	39,720	6,686	33,034
	職員人件費					地方債	25,700	3,300	22,400
	公債費					特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)					特定財源(その他)			
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	東久代公園災害復旧事業	細事業事業費	76,053
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	東久代運動公園(東久代1-14)		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)26年度 of 取組と成果			

平成25年9月15日に発生した台風18号により使用不可となった東久代運動公園は、平成26年6月1日より供用を再開した。

平成26年8月10日に発生した台風11号による豪雨で再び全面冠水し使用不可となったが、復旧工事等を行い平成27年4月11日より使用を再開した。



災害時及び復旧前の様子

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価(達成度)	
☐ 想定以上の成果を達成できた。 ☒ おおむね達成できた。 ☐ 少し達成できた。 ☐ 現状のままに留まった。 ※「自己評価(達成度)」は、数値や具体的な行政サービスの向上、建設事業等の進捗状況を踏まえ、各種計画や予算で想定していた成果に対する達成度合いで評価しています。	26年度の事業の達成状況 平成27年4月11日より使用を再開し、野球、テニス、サッカー等に活用されている。
課題と改善について 河川敷において台風による増水、浸水そのものを防ぐことは難しいが、将来において万一再び被災した場合においては、迅速な復旧に努める。 ※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。	27年度以降における具体的な方向性について 今後とも利用者が安全にスポーツを楽しめるよう、適切な維持管理を行っていく。

